

農林水産大臣賞

つちぶちちょうのうそんかっせいにかきょうぎかい
土淵町 農村活性化協議会

(岩手県遠野市)



協議会構成員の皆さん

土淵町農村活性化協議会は、人口減少や高齢化による遊休農地の増加、旧中学校の廃校舎の未活用、小集落における生活支援の不足など、地域が抱える複合的な課題の解決を目指し、地域内の農業団体、地域づくり組織、観光団体、自治会など6団体が連携して令和4年度に設立された。地域住民とのワークショップを重ね、「農用地保全」「地域資源活用」「生活支援」を三本柱とする「でんでらパラダイス構想」を策定し、住民主体の農村型地域運営組織(RMO)として活動している。

農用地保全では、遊休農地を活用したそば・大豆・小麦の栽培や、市民農園「でんパラ市民農園」の運営に取り組んでいる。また、新たな高収益作物として高級メロン栽培に挑戦し、専門家の指導や実証栽培を重ねながら、地域の新たな特産品づくりを進めている。これらの取組は農地の保全だけでなく、地域農業者の意欲向上や新たな販路開拓にもつながっている。

地域資源活用では、廃校となった旧土淵中学校を拠点に、日替わりシェフレストラン「でんパラ」を開設した。地域住民や移住者、若者、女性がシェフとして活躍し、多世代が交流する地域の交流拠点となっている。さらに、空き教室を活用したわら細工や竹細工などの伝承活動、農産物販売マルシェの開催、農泊やサイクリングツアーなど観光資源を活かした交流事業も展開している。

生活支援では、高齢者の知恵や技術を活かした炭焼きツアーを実施し、山林資源を活用したスモールビジネスの創出に取り組んでいる。また、市民農園やレストランを交流拠点として活用し、高齢者の生きがいがづくり、移住者との交流、地域コミュニティの維持・活性化を図っている。



市民農園での活動



「でんパラ」日替わりシェフ



炭焼きツアーの様子